東洋大学	学生員	樋口幸太郎
東洋大学	正会員	新延泰生
東洋大学	学生員	佐々木亮

1.はじめに

構造物の幾何形状決定法は様々であり,長さや材料 特性等の物理的制約と,構造物の用途を考慮した設計 者の意志により決定される方法や,逐次線形計画法を 用い,要素レベルでの応力制約のもと,断面積および 節点座標の関数で表される目的関数(トラス構造物の 重量など)を最小に導くような解析学的な形状の決定 法などもある.

本研究では、ラーメン構造物の幾何形状を決定する にあたり、これまで筆者等が研究を行ってきたトラス 構造物の形状感度解析法を発展させ、節点座標を感度 係数とするラーメン構造物の形状感度係数および形状 感度係数特性を導いている.またシンプルな3部材 ラーメンモデルを例に取り、変位の形状感度係数、節 点座標、外力で表される目的関数(外力仕事)と制約 条件を定めている.これらは線形結合式で表されるた め、シンプレックス法により容易に最適形状を求める ことが出来る.

2.節点座標を感度係数とする形状感度解析

部材数 m のラーメン構造物における形状感度係数 は,節点変位₂を感度変数とし,節点座標X₄で偏微分

$$\frac{\partial z_k}{\partial X_h} = \sum_{i=1}^m \left\{ \frac{\partial z}{\partial a_i} \frac{\partial a_i}{\partial X_h} + \frac{\partial z}{\partial b_i} \frac{\partial b_i}{\partial X_h} + \frac{\partial z}{\partial c_i} \frac{\partial c_i}{\partial X_h} + \frac{\partial z}{\partial d_i} \frac{\partial d_i}{\partial X_h} \right. \\ \left. + \frac{\partial z}{\partial f_i} \left(\frac{1}{2} \frac{\partial f_i}{\partial X_h} \right) + \frac{\partial z}{\partial g_i} \left(\frac{1}{2} \frac{\partial g_i}{\partial X_h} \right) \right. \\ \left. + \frac{\partial z}{\partial h_i} \left(\frac{1}{3} \frac{\partial h_i}{\partial X_h} \right) + \frac{\partial z}{\partial i_i} \left(\frac{1}{3} \frac{\partial i_i}{\partial X_h} \right) + \frac{\partial z}{\partial j_i} \left(\frac{1}{3} \frac{\partial j_i}{\partial X_h} \right) \right\}$$
(1)

した $\partial_{Z_k}/\partial X_h$ で表される.ここで,独立変数 a_i , b_i , c_i ,

$$\sum_{h=1}^{n} \frac{\partial z_{k}}{\partial X_{h}} X_{h}^{k+1} = \sum_{i=1}^{m} \left(\frac{\partial z_{k}}{\partial x_{s}} x_{s}^{k+1} + \frac{\partial z_{k}}{\partial y_{s}} y_{s}^{k+1} + \frac{\partial z_{k}}{\partial x_{e}} x_{e}^{k+1} + \frac{\partial z_{k}}{\partial y_{e}} y_{e}^{k+1} \right)$$
$$= z_{k}^{k+1}$$
(2)

d_i, *f_i*, *g_i*, *h_i*, *i_i*, *j_i*を中間変数として表すと次式となる. また,節点変位の形状感度係数特性は次式となる. n:全自由度数



キーワード:幾何形状,形状感度解析,形状最適化,外力仕事

* 東洋大学 大学院工学研究科 構造システム研究室 〒 350-0815 埼玉県川越市鯨井 2100

ト荷重 M_k が作用する場合の外力仕事Wは,感度変数 を節点座標 X_k とする推定式(3)で定式化される.

$$|W| = \left| \sum_{k=1}^{l} \left\{ P_{Hk} \left(\sum_{h=1}^{n} \frac{\partial z_{Hk}}{\partial X_{h}} X_{h} \right) + P_{Vk} \left(\sum_{h=1}^{n} \frac{\partial z_{Vk}}{\partial X_{h}} X_{h} \right) \right. \\ \left. + M_{k} \left(\sum_{h=1}^{n} \frac{\partial z_{\theta k}}{\partial X_{h}} X_{h} \right) \right\} \right|$$
(3)
$$l : \mathbf{\hat{g}} \hat{m} \hat{\mathbf{x}} \hat{\mathbf{x}}$$

本研究では,以下の制約条件を満足し,目的関数(3)を 最小に導くような節点座標を求める問題の定式化を 行った.

$$\underline{X}_{h} \leq X_{h} \leq \overline{X}_{h} \tag{4}$$

式(4)の \underline{X}_{h} および \overline{X}_{h} は,感度変数の下限値および上限 値である.ここで,式(3)は線形結合式であるため,目 的関数(3)を最小に導く単一線形問題を解くことで, 最大剛性を持つ最適形状を導くことが可能となる.ま た目的関数を外力仕事とすることにより,全断面力を 考慮することになり,合理的な計算が可能となる.

4.3部材ラ-メンモデルにおける解析例

Fig.1 に示すシンプルな3部材ラーメンモデルを例 に, Table.1 に示すような2種類の荷重条件下で解析 を行った.



Fig.1 3部材ラーメンモデル図および諸条件

Table.1 荷重条件

荷重条件1	節点3に水平荷重P _{V3} が作用した状態.
荷重条件2	節点3に水平荷重P _{H3} および鉛直荷重P _{V3} が作用した状態.

TEL: 0492-39-1391 FAX: 0492-31-4482



Table.2 初期变位(荷重条件1)

	U ₂	V ₂	θ_2	U ₃	V ₃	θ_3
Displacement (Initial)	-3.537E-03	1.704E-03	-4.601E-05	-1.287E-03	-5.965E-04	-1.993E-04
[Unit : u and v are 'cm', θ is 'rad.'						

Table.3 変位の形状感度係数(荷重条件1)

Z _k	U2	V ₂	θ_2	U ₃	V ₃	θ_3
Z _k / X ₁	-5.487E-04	9.948E-05	2.341E-06	-3.385E-04	-1.109E-04	-1.738E-05
Z _k / y ₁	3.686E-04	-9.367E-05	6.508E-06	2.070E-04	6.797E-05	1.131E-05
Z _k /X ₂	1.074E-03	-3.640E-04	-4.281E-06	7.037E-04	2.354E-04	3.681E-05
z _k / y ₂	-7.986E-04	3.105E-04	-1.412E-05	-5.327E-04	-1.793E-04	-3.022E-05
Z _k /X ₃	-2.906E-04	1.516E-04	6.230E-06	-3.032E-04	-6.126E-05	-3.197E-06
z _k / y ₃	4.850E-04	-2.428E-04	9.442E-06	3.418E-04	1.253E-04	1.960E-05
Z _k / X ₄	-2.347E-04	1.129E-04	-4.290E-06	-6.201E-05	-6.328E-05	-1.623E-05
z _k / y ₄	-5.493E-05	2.602E-05	-1.833E-06	-1.609E-05	-1.396E-05	-6.851E-07

Table.4 形状感度係数特性(荷重条件1)

Z _k	U ₂	V ₂	θ_2	U ₃	V ₃	θ_3
z _k / x ₁ • x ₁	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00
z_k/ y_1 • y_1	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00
z _k / x ₂ ·x ₂	1.074E-02	-3.640E-03	-4.281E-05	7.037E-03	2.354E-03	3.681E-04
$z_k / y_2 \cdot y_2$	-1.597E-02	6.210E-03	-2.824E-04	-1.065E-02	-3.586E-03	-6.045E-04
z _k / x ₃ · x ₃	-5.812E-03	3.031E-03	1.246E-04	-6.064E-03	-1.225E-03	-6.393E-05
z _k / y ₃ •y ₃	1.455E-02	-7.285E-03	2.833E-04	1.025E-02	3.759E-03	5.880E-04
Z _k ∕ X₄ • X₄	-7.042E-03	3.388E-03	-1.287E-04	-1.860E-03	-1.898E-03	-4.870E-04
 z _k / y ₄ •y ₄	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00	0.000E+00
sum.	-3.537E-03	1.704E-03	-4.601E-05	-1.287E-03	-5.965E-04	-1.993E-04

節点変位の形状感度係数は、荷重による初期変位の関 数であるため、荷重条件により変動する.ここでは、 荷重条件1における、初期変位Table.2および、変位 の形状感度係数Table.3、感度係数特性値Table.4の みを示す.また、節点座標が変動した際の応答の推定 を、FEMと感度係数特性を用いて求めた.荷重条件1 において、y。座標を変化させた場合の節点3の推定鉛 直変位をFig.2に、荷重条件2において×。座標を変化 させた場合の節点3の推定水平変位をFig.3に示す. 次に、定式化に基づいて求めた荷重条件1における最 適形状をFig.4に、荷重条件1における最適形状を Fig.5に示す.

5.結果および考察

解析の結果 本手法によるラーメン構造物の形状感 度係数特性が確認された 感度係数特性値を用いた応 答の推定では,初期節点付近においてFEMによる変 位の推移に近似した傾向が認められたが,荷重条件次 第では推定値の誤差が大きくなることがある.そのた め,初めの解析で得られた最適形状を初期形状とし, 再度本手法による形状最適化を行うことが望ましい.

また本研究で採用した制約条件に加え、隣接する節 点との関係式を制約条件に導入することにより、さら に詳細な形状最適化が可能となる.現在,本研究を応 用し、斜張橋の最適ケーブル添加形状の決定法に関す る研究を行っている.

²⁾ 早川亘:トラス構造物における形状感度解析 東洋大学修士論文,1995年2月

³⁾ Uri Kirsch 著,山田善一,大久保禎二 監修:最適構造設計 - 概念・方法.応用- 丸善,1983 年 10 月

⁴⁾木下栄蔵著:わかりやすい意志決定理論入門 近代科学社,1996年2月